

「第13回 利根大堰周辺の治水と環境検討会」 議事要旨

【会議概要】

日 時	令和6（2024）年12月27日（金）15:00～17:05
場 所	道の駅はにゅう会議室（埼玉県羽生市上新郷 7066 番地）
議 事	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）利根大堰周辺におけるメンテナンス掘削の実施について （2）利根大堰下流部における河道掘削の今後の見通しについて （3）その他 4 閉会
配布資料	・ 議事次第 ・ 検討会名簿 ・ 配席図 ・ 資料1 利根大堰周辺におけるメンテナンス掘削の実施について ・ 資料2 メンテナンス掘削実施スケジュール ・ 資料3 利根大堰下流部における河道掘削の今後の見通しについて ・ 参考資料1 自然環境モニタリング調査結果（R6 年度報告） ・ 参考資料2 「第12回利根大堰周辺の治水と環境検討会」議事要旨 ・ 別添資料 設立趣意書・規約・名簿
出席者	（団体） ・ 新井 千明：NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会 副会長 ・ 今村 武蔵：NPO 法人ふるさと創生クラブ 代表 ・ 岩田 薫：全国環境保護連盟 代表 ・ 島田 勉：行田ナチュラリストネットワーク 研究部長 ・ 須永 伊知郎：公益財団法人 日本生態系協会 理事（※コーディネーター） ・ 橋本 恭一：行田ナチュラリストネットワーク 代表 （学識者） ・ 浅枝 隆：埼玉大学 名誉教授 （行政・関係機関） ・ 行田市 道路治水課：（代理）木元稜明主任 ・ 利根川上流河川事務所 飯野事務所長 （事務局） ・ 利根川上流河川事務所 流域治水課・大島課長、井上係長、山下技官 川俣出張所・新保専門官 ・ （公財）日本生態系協会 遠藤、渡辺、大見

【会議の様子】



1 開会

2 あいさつ 【利根川上流河川事務所】

前回、5月に現地をご覧頂いた際に何らかの形で手を加えた方が良いということは皆さんに合意頂いたと思いますが、今日は、「だるま池」と「たまり池」のメンテナンス掘削の進め方などについて説明させて頂き、ご意見をいただくとともに、年明けに実施予定の掘削の現場も見て頂くことも想定して、進めていきたいと考えています。限られた時間の中ではありますが、忌憚の無いご意見を頂ければと思います。よろしくお願いします。

3 議事

(1) 利根大堰周辺におけるメンテナンス掘削の実施について

利根川上流河川事務所より「資料1」および「資料2」について説明が行われ、それに基づく意見交換が行われた。

<主な意見等要旨>

- ・ 樹林帯は全部無くす必要はなく、あった方がよいと思うが、資料に記された「土砂堆積を抑制する樹林帯」とはどういう意味か？（学識者）
- ・ （だるま池の低水路側に）樹林帯があることで、川からの土砂が池に侵入するのを抑制する効果を期待するということ。（事務局）
- ・ 樹林帯や植生があるところでは土砂の堆積が促進する傾向がある。「たまり池」では、法面が崩れてということもあると思うが、土砂の堆積もあると思われる。そのため、少し深めに掘っておいた方がよいと思う。（学識者）
- ・ P6 図上側の低水路側から池に水が流入する際に、なるべく土砂を「だるま池」にいれない形でできれば考えた。この図の右から左側に水が流れるが、現状では堆積傾向にあると思うので、現場の高さ、凹凸がどうなっているのか、横断方向・縦断方向で改めて確認させて頂こうと思う。（事務局）
- ・ もう一度、現地の地形条件を確認頂くということだが、基本的には、この場所を前回掘った時からのデータの比較に基づいて浅くなって水が溜まらなくなっている分について、深く掘っていくことの根拠が示されていると思う。更に深くする必要があるのかを検討する上でも、今回はあくまでもメンテナンスという意味でのつなぎとしての位置づけである。P3の図にあるように、これまでの「掘削実施済エリア」、「次期掘削エリア」、「最終掘削エリア」とある中で、今回のメンテナンス掘削は今後、本格的に掘っていくまでの当面のつなぎ的な意味で、掘った後

にどうなるのかを見ながら、ふさわしい掘削のあり方を検討していこうという主旨だと思う。ご指摘のように、もう少し深く掘った方がよいのかについては、再度検討・確認して頂ければと思う。(コーディネーター)

- 掘削方針が改めて示されたことについては、非常に心強いと思った。P14 のモニタリング方針について、5 月に「だるま池」を現地視察した時に生物の腐敗臭がして、5 月にこれでは水があっても目標としているコウノトリの食べ物はあるのかという懸念があった。掘削後のモニタリングに関しては、コウノトリの餌となる水生動物のモニタリング自体も入れてもらう必要があると思う。資料 P16 の右下に「餌となる多様な水生動物が生息可能となり」ということが謳われている。水深は適当であればいいが、実際に餌となる生き物がいなければコウノトリも入ってこない。ぜひ、餌動物となる水生動物のモニタリングも加えて頂きたい。(団体)
- P14 は、掘削した地形・水深がどうなるかのモニタリングについて書いている。今までにも行っている動植物調査については、「だるま池」・「たまり池」についても同様にモニタリングを行う。水位の変動も見ながら、どういったタイミングで魚類が入ってくるかの確認も含め、同じ様に調査をしていきたい。(事務局)
- 前回の 5 月の時にも、P16 にあるコウノトリをシンボルとした掘削を考えて欲しいとのご意見を頂いていたと思う。コウノトリだけということではなく、カエルや水生昆虫、魚類などがトータルにいないとコウノトリは安定的に棲めないという意味での指標であるため、餌動物も含めて調査することの意味は大きいと思う。今後の生き物調査の中で、是非進めて頂ければと思う。コウノトリについては、関東地方整備局で使っているコウノトリの餌動物調査マニュアルなどもあるので、そういった調査手法による評価値との比較など、どこまで環境条件が整ってきたのかの分析もして頂けると良いと思う。(コーディネーター)
- メンテナンス掘削については、結構なことだと思う。そもそも治水工事後ばかりウェイトが置かれてきた中で、環境整備にもウェイトを置くことが非常に大事である。P3 の背景の部分について、「平成 28 (2016) 年度から・・・掘削が進められている」と書かれているが、私の認識では、最初にここを掘削したのは 2003 年～2006 年で、その時に表土をとっておいて活かすという事だったが、その後二度掘りされて環境面に配慮して自然再生したことが活かされなかった。その反省から、この検討会が発足したが、背景にきちんと書かれていない。「治水」と「環境」を調和させる全国のモデル事業にしようということで始まった過去の経緯について、改めて認識して背景の所に記しておいて頂きたい。もう一点は■■■■■■■■■■の問題で、前回の議事要旨 P5 にもあるが、重要種である■■■■■■■■■■の重要な■■■■■■■■■■場所である利根大堰直下で今年はわずか 15 個しか■■■■■■■■■■が確認されなかったのが風の影響との説明だったが、その際、科学的に風速データを示して検証してもらいたいということを発言した。今回の資料には全く示されていないし、水資源機構も出席していないので確認もできない。以上 2 点を確認したいが、いかがか。(団体)
- 前回の検討会では確か、■■■■■■■■■■の確認■■■■■■■■■■数が前年度と比べて激減した理由について、風と■■■■■■■■■■数の経年的な変化の関係をグラフ等にして検証して欲しいということだったかと思う。この後どうなったのかは水資源機構に問い合わせて頂き、資料があればこの場なり岩田さんに提供頂ける、と言うことで良いか。(コーディネーター)
- 過去の経緯については我々も十分に認識しているが、背景としての経緯の記載が十分でなかったことはお詫びしたい。今回は「だるま池」と「たまり池」の掘削の形状についてご意見を頂くため、本日ご出席の皆様のご予定を最優先させて頂き、年末の夕方という日程設定となり申し訳なく思う。風速等については、この後、冬の調査・■■■■■■■■■■の状況調査なども行うので、その結果を踏まえ、来年の 5 月頃に年間を通した調査結果をご報告する際に、今年の冬の調査結果も踏まえて、過去と比べて風速がどうだったかも検証しながら、データを示していくようにしたい。5 月頃には 2 つの掘削も大分終わって現場も見えて頂けると思うので、その時にご説明さ

せて頂くということでご容赦頂きたい。(事務局)

- ・ 水資源機構にも、どうなったのかを示して頂きたいという意見があったことを、きちんとお伝え頂きたい。(団体)
- ・ 前にもこの場で何度も言っているが、「たまり池」ではかつて湧き水がありバンなどの水鳥も繁殖したくらいだった。ただ、その後、泥が溜まったりして池がなくなっているが、一つお願いしたいのは、堤防側・北面の斜面について、工事の際に、全部でなく所々でいいので垂直にして、カワセミが営巣可能な泥の崖にすると繁殖すると思うので、整備して欲しい。(団体)
- ・ そういった形で配慮できるよう施工業者とも相談して、工事の中で工夫したい。ただ、斜面をつくっても形状がいつまで保たれるか分からない点については、ご了解頂きたい。(事務局)
- ・ 昔、湧き水があつて現在なくなったということは重要。川の水面が池の場所よりも低くなっているため、河川敷側が上がってしまっているから。そのため河川敷は土砂が堆積してほしくない場所になるが、そのために何か考えがあるか。(学識者)
- ・ P1 右下のグラフを見ると、過去と比較すると 3m 近く河床が下がっていて、高水敷は洪水の頻度が下がって攪乱が起きなくなり固定化されて、二極化している。(事務局)
- ・ 河床が下がって、陸の方は変わらないので差が出ている。現状は川の底は安定してきているが、川の底は余り下がらずに陸のほうが下がるような方法はないものか。(学識者)
- ・ 次の議題にもつながるが、現在、「河川整備計画」等が見直されており、気候変動で雨量が増えて川に流れてくる流量が増え、今までやってきた対策だと目指す治水安全度が足りないため、河道掘削しなくてはいけない計画に、大きく転換するタイミングにある。特に利根大堰から下流は我々が管理している区間の中でも、水を流す断面積として不足しており掘削しなくてはいけない範囲になる。治水上でも高水敷や河岸の高さを下げるようにしなくてはいけない機会、目指す環境になるように工夫していきたい。(事務局)
- ・ 河道の中で、土砂の横移動はダメなのか。(学識者)
- ・ 土を持ち出さないと容量が変わらないので、川から土砂を持ち出すことを前提としている。(事務局)
- ・ 島田さんご指摘のカワセミ繁殖崖については、ご意見を踏まえて法面の勾配や掘り方は多少の調整は可能だと聞いているので、現場でまたお話頂けると良いかと思う。(コーディネーター)
- ・ 「だるま池」と「たまり池」は、当面のメンテナンス掘削ということで、次の本格的な広域の掘削につなげる試験的な要素となるが、1 月から掘削工事を始めるということで、ご了解頂けたということにしたいと思う。(コーディネーター)

(2) 利根大堰下流部における河道掘削の今後の見通しについて

利根川上流河川事務所より「資料 3」について説明が行われ、それに基づく意見交換が行われた。

<主な意見等要旨>

- ・ 利根大堰上下流だけでなく、広域的な視点で利根川流域全体をどうしていくのか、その前提として世界的な環境政策の目標である気候変動と生物多様性への対応が求められている中で、「環境」と「治水」をどう調和させるかということが問われている。「河川整備計画」は河川管理者にとっては憲法のようなものだと思うが、30 年くらいのスパンの中で実現していく具体的な目標や工事内容・場所、それに対して環境をどうしていくのかを総合的に示す計画で、現在見直しが検討されている。この大きな計画が決まっていくことに合わせて、利根大堰周辺の扱いについても、ご説明を頂いた。幅広い意見や感想をお願いしたい。(コーディネーター)
- ・ 資料の P3 を見ると、利根大堰の部分も含め、かなり大きな掘削が行われる計画とのことだが、P5 では「治水と環境の両立を目指した掘削」が挙げられている。今後の掘削の中では、「多自然川づくり」や「生物多様性国家戦略」に基づいた工事になると思う。大きな掘削が行われる

言える。今回、「だるま池」・「たまり池」で当面掘削するのは実験的・試験的な取組みになり、少し先の話しでは埼玉県側・右岸側の堤防強化工事とセットで掘削をする機会がある。更に新たな「河川整備計画」の今後 30 年の中で河道掘削を進めるという、3 つ位のステージの中で「治水」と「環境」を一体的にどう進めていくのかを考えながら、良い事例を蓄積していくことが一番良いと思う。(コーディネーター)

- ・ここは元々砂礫地で殆ど植物がなく、いずれの植物も後から入ってきたことになる。アレチウリなど外来種は問題外として、在来種でも昔からあった植物ではないので、そういったことも加味しながら、どういう植物は良くて、どういう植物が無くてよいのかも考えていく必要があるかと思う。掘削の場所や順番などと、うまく組み合わせを考えていくことが必要と思う。(学識者)
- ・今後の大規模な河川改修計画の範囲を見ると、熊谷の部分も広いので、この検討会に熊谷市にも入って頂いた方がよいのではないか。(団体)
- ・この検討会の検討事項になるのであれば、ぜひ声をかけて頂ければと思う。(団体)
- ・この場は、利根大堰周辺についての検討の場であることが基本。議論を排除するというのではなく、熊谷区間について事業を実施する時は、別途説明を行うことにもなると思われることもあり、実際の事業実施になった際に熊谷市にも相談等していく形になるかと思う。(事務局)
- ・昭和橋付近や少し上流にも中洲があり、コアジサシやコチドリなどが繁殖していた。掘削時にはこうした中洲までとってしまうのか。(団体)
- ・赤い線の中で掘削していこうということだけで、詳しくは決まっていない。また、一気に掘るといいう事でもない。順応性や代替性なども念頭に置きながら掘り方を考えていくが、現状では詳しくは決まっていない。(事務局)
- ・全体的に下がれば冠水頻度が高くなるので、土砂がのったり植生が繁茂したりすることが少なくなるので、礫河原としては、良くなるはずだと思う。(事務局)
- ・資料のグラフを見ると川俣の水位が下がっているが、これは、どういうことか。(団体)
- ・河床が下がってきて、今は安定傾向にあることを示すグラフ。利根大堰で取水して水が減っているということではなく、河床が下がっているということの説明資料である。(事務局)
- ・利根大堰上流部で、土砂が堆積して浅くなっていることが心配。浚渫の予定はあるのか。(団体)
- ・千代田町も心配しており、我々も堆積傾向であることを承知している。今回の掘削区間にも入っている。(事務局)
- ・今日の議論を通じて、「治水」と「環境」の両方について当面の課題から将来の計画までの認識が深まったと思う。先ほど資料 2 のこれからの予定で説明があった通り、「たまり池」の掘削工事が始まった段階で、カワセミの崖を造るなど現場である程度修正・意見を入れられるとのことなので、改めて声をかけさせて頂くということで、今日の議論については終了したい。(コーディネーター)

(3) その他

- ・今日は 27 日ということで役所が御用納めの日で、やむを得ないということがあったのかもしれないが、折角の大事な検討会に行政の方や特に水資源機構の出席がないのは非常に残念でならない。個人的な事で恐縮だが、自分の父親が亡くなって葬儀をやらなくてはいけないうところ、今日の会議があったので葬儀を延期して今日出席したということもある。日程の件につき、一言苦言を呈しておきたい。(団体)
- ・資料 1 の参考 6 の写真にあるアライグマが多く確認されたことが、大変気になっている。単なる外来種ではなく「特定外来種」。市町村の努力義務で捕殺しないといけない。増えると農作物を荒らしたり家屋に入り込んだりする。河川敷だからと放っておかないで、対策を検討して頂きたい。(団体)

- ・ 折角ここで生物多様性対策として■■■■■等を増やそうとしても、食い荒らされてしまっ
ては意味がない。予算的には大変だと思うが、農作物を守るという事でも対策を進めて頂
きたい。(団体)
- ・ 努力義務とは言え、「特定外来生物」については外来生物法に基づき自治体の役割として駆除が
進められている状況にある。今日は欠席されているが、今後この場で自治体の方からアライグ
マの対策の実施状況などについて情報共有して頂けると良い。特に堤内地側では農作物の対策
として駆除が進められてはいるが、河川敷がアライグマの供給源になっている場合がある。供
給源の方を減らさないと、堤内地へどんどん増えるという関係性にもある。こうした検討会
の場もうまく使いながら、それぞれの役割分担の中で、いい形で進められると良いと思う。(コ
ーディネーター)

4 閉会

それでは検討会を終了させていただきます。年明けの現地見学会については、改めてご連絡させて頂
くので宜しくお願いします。本日はどうも有難うございました。(事務局)

以上